



123

のつながりに発展させる。これは正しいことではあるが、内向きのグローバルもあることを忘れてはならない。国学院大の赤井学長は「ブッシュ型グローバルとブル型グローバルと位置付け、後者の重要性を示唆している。」

内閣府の発表によると日本の人口は2050年には約9700万人。労働人口が大幅に減少して経済の低迷が予測されている。しかし、20年



中萬学院
大学受験指導事業部長 井川 隆成

未来を拓く

最近、「グローバル」という言葉をよく耳にするが、高校生に「グローバル人材」って何?と問うと「海外へ視野を広げ、世界で活躍する人」という答えが返ってくる。英語や学んだ専門性を生かして世界を舞台に自分の夢を実現する。

そして個人や組織のコミュニケーションから国と国と

今の積み重ね 大切に

の東京オリンピック開催が追い風となつて多くの外国人が日本を訪れ、日本の経済力を保持し発展させるために労働者として活躍することも考えられる。そうなる日本での長期定住化とモチベーションの持続が不可欠で、外国人にやりがいを持つて仕事をしてもらうことが重要だ。この時代になつたときに必要な知識は何か、どのような行動をとればよいのか…。最近、高校生にこのような話をしていく。結論の一つは外国人に対するヒューマンマネジメント力を身に付けること。その前提は「われわれが日本の良さを外国人に伝えることができるか」で、日本の伝統や文化、歴史を自ら学ぶことの大切さを示すようにしている。

自ら実践すべく今年の学びのテーマは「日本の伝統や文化を学び直す」こと。先日、曹洞宗の寺で座禅をしたとき僧侶から法話があった。テーマは「正念」、禅語でいえば前後際断(過去と未来を忘れ、今に集中すること)。過去、現在、未来で思い通りになるのは「現在」のみ。未来を考えることも大切ではあるが、今の大切さをあらためて考えさせられた。未来のこと。先のことばかりに目が向き、今がおろそかになったら本末転倒。この体験は思いもよらぬ収穫であった。

高校生は多感な時期。向上心を大きく伸ばせるチャンスでもある。先のこと考えるだけでなくこの一瞬を大切にすること、今の連続で未来が拓かれることを伝えていきたい。